

養護 採点基準

4枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点	
1	1	4			3	2 1
	2	(1)	2		3	
		(2)	3		3	
	3	2			3	
	4	A	3		3	
		B	2		3	
		C	5		3	
2	1	1、4、5		3つとも合っているものだけを正答とする。	6	1 2
	2	7			3	
	3	4			3	
3	1	5			3	2 1
	2	1			3	
	3	5			3	
	4	6			3	
	5	8			3	
	6	3			3	
	7	3			3	
4	1	6			3	1 5
	2	(1)	5		3	
		(2)	3		3	
	3	2			3	
	4	3			3	
5	1	(1)	4		3	2 4
		(2)	6		3	
	2	(1)	6		3	
		(2)	4		3	
		(3)	5		3	
	3	1			3	
	4	3			3	
	5	8			3	
6	1	A	6		3	2 7
		B	5		3	
		C	1		3	
		D	2		3	
	2	(1)	1		3	
		(2)	4		3	
		(3)	5		3	
	3	(1)	1		3	
		(2)	7		3	

養護 採点基準

4枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕		採 点 上 の 注 意		配 点	
7	1	A	有害			各 2 × 5	2 8
		B	規範意識				
		C	教育活動全体				
		D	学校保健計画				
		E	学校薬剤師				
	2	・対面又は映像及び音声のリアルタイムでの双方向通信でなければ購入できない。 ・購入する際に、氏名・年齢・購入者の状況の確認及び濫用等にかかる情報提供の実施、他店での購入状況の確認をしなければ購入できない。 ・大容量製品や複数個の購入ができない。		1つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	3		
	3	(1)	健康相談前	この女子生徒が市販薬の不適切使用を行った背景に学業不振や友人・家族との人間関係のこじれ等がないか、学級担任や部活動顧問、保護者等の関係者から情報収集しておく。また、いつ頃からつらい気持ちを抱えていたのか、今までの出欠状況や保健室来室状況を確認し、収集した情報と照らし合わせて課題の背景の把握に努める。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 5 × 2	
			健康相談後	女子生徒から聞き取った話を踏まえ、支援方針・支援方法を検討し、関係者で支援チームを構成し共通理解を図り、役割分担をして組織的に継続支援ができるよう校内体制を整える。 女子生徒にはつらくなったらいつでも保健室を利用してよいことを伝え、定期的に女子生徒の心身の状態の変化を把握し、状況に応じてスクールカウンセラーや医療機関に繋いだり、支援方針の再検討をしたりする。			
		(2)	医薬品は、疾病からの回復や悪化の防止のためのものであり、使用方法に関する注意を守り正しく使うことが必要であることについて指導する。 医薬品の特性には、主作用と副作用があり、副作用にはあらかじめ予想できるものと、予想できないものがあること、その症状も軽いものから命に関わるものまであることについて、医薬品の人体への作用を養護教諭の専門性を生かし具体的に説明する。 使用方法の具体例として、近年の若年者の市販薬の不適切使用に触れ、用法用量を守らなかったり、併用したりすることでさらに心身へ大きな影響を与えること、市販薬にも依存性があり、不適切使用を繰り返すうちに自力ではやめられなくなってしまう可能性があることについて指導する。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5	

養護 採点基準

4枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕		採 点 上 の 注 意	配 点	
8	1	配慮すべき場面	学校における支援の事例	3つ書かれていればよい。 「配慮すべき場面」と「学校における支援の事例」が対応しているものだけを正答とする。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてよい。	各 3 × 3	
		生徒指導の場面	・自認する性別の制服・衣類や、体操着の着用を認める。 ・標準より長い髪型を一定の範囲で認める。			
		授業の場面	・体育又は保健体育において別メニューを設定する。 ・水泳は、上半身が隠れる水着の着用を認める、補習として別日に実施、またはレポート提出で代替する。			
		更衣・脱衣が必要な場面	・更衣室は、保健室や多目的トイレの利用を認める。 ・トイレは、職員トイレや多目的トイレの利用を認める。 ・脱衣を伴う健康診断は、個別に実施する。			
		文書作成の場面	校内文書を児童生徒が希望する呼称で記す、自認する性別として名簿上扱う。			
		部活動の場面	自認する性別に係る活動への参加を認める。			
		宿泊行事の場面	1人部屋の使用を認める、入浴時間をずらす。			
	2	・養護教諭は、日々の健康観察や保健調査及び健康診断結果等から一人一人の健康状態を把握していること、児童生徒等が保健室に来室した際の何気ない会話や悩み相談等から、児童生徒等を取り巻く日々の生活状況、他の児童生徒等との関わり等に関する情報を得やすい立場にあることから、個別に話を聞ける状況を活用しつつ、児童生徒等に寄り添った対応や支援を行う。また、児童生徒等から収集した情報については、必要に応じて各学級の担任や他の関係する教職員と共有する。 ・養護教諭は、職務の特質から、児童生徒等の心身の健康課題を発見しやすい立場にあること、校内での学年等の枠や校種間を超えて情報を収集することもできることから、情報収集に当たっては、特別支援教育コーディネーターと事前に協議し、校内での効果的な情報の共有を図る。また、定期的な相談や情報交換を行う体制づくりに関わる。 ・教育上特別な支援を必要とする児童生徒等の中には、例えば、健康診断が苦手で実施が困難な場合があるため、養護教諭はそれらの児童生徒等に配慮した健康診断及び保健指導を実施する必要がある。あらかじめ校内委員会等において、健康診断及び保健指導の計画の立案等を積極的に行い、方針を決めた上で、事前に保護者と相談を行いつつ、健康診断を実施する。 ・養護教諭は、児童生徒等の心身の健康課題を把握し、医療機関への受診の必要性等について、学校医に相談を行う。また、必要に応じて学校医に対して、授業や休み時間等に児童生徒等の様子を共に観察することを提案するなど、児童生徒等の日常的な様子や実態を把握する働き掛けを行う。また、医療的ケアが必要な児童生徒等に対する支援に当たって、特別支援教育コーディネーターが医療機関等の専門家と連携を図る必要がある場合には、積極的に協力する。		2つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えられていれば、表現は異なっていてよい。	各 5 × 2	19

養護 採点基準

4枚のうち4

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕		採 点 上 の 注 意	配 点
9	1	組織	学校における健康に関する課題を研究協議し、健康づくりを推進するための組織	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	4
		中心人物	保健主事		3
	2	健康課題	取り組むべきこと	2つ書かれていればよい。「健康課題」と「取り組むべきこと」が対応しているものを正答とする。内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 6 × 2 3 3
		資料1から、裸眼視力1.0未満が全国調査を上回っている。	視力低下の要因の一つに、長時間の近業が影響していることから、スマートフォン等の機器使用時の姿勢や距離、部屋の明るさ、使用時間や休憩の必要性について保健教育を行う。近視については、矯正すればよい、ではな使用時間が2時間以上、将来の目の病気との関連が大きいことについてや屋外で過ごすことが近視の予防になることも加えて指導する。		
		資料2から、スマートフォン等の機器の使用時間が8割を超えている。その影響もあつてか、睡眠時間が8時間未満の生徒が全国調査を上回っている。	また、スマートフォン使用時間と睡眠時間は密接に関係しているため、保護者の協力を得る必要がある。保護者会や長期休み前の保健だより等を活用して、家庭でのルール作りの推奨を行う。		
		資料1から、むし歯については全国調査を下回っている。	中学生期は永久歯の咬合が完成する時期であると同時に、歯肉炎が発生しやすい時期であるため、学校歯科医等が、歯垢及び歯肉の状態については「専門医による診断が必要」と判定された者のための保健教育を行う。		
9	3	資料2から、8割近くの生徒が毎日間食をしており、全国調査を上回っている。	その際、歯肉炎は自分の生活行動を見直すことで症状が容易に改善するところが多いため、自身の生活習慣の振り返りを行い、特に間食については甘味食品や甘味飲料に含まれる砂糖量と歯垢形成との関係等について指導した。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	1 4
		資料1から、男子生徒については、身長が全国調査を下回っているのに対し、体重は全国調査を上回っている。	これらの資料からでは傾向しか読み取れないため、一人一人の成長曲線や肥満度曲線を作成し、適正な体格から反れている生徒に対し個別の保健指導を行う。		